

たんぽぽ

発行者 川村 克彦

運動会 お世話になります

土曜日は運動会です。

運動会も目的は、「様々な集団行動を通して、互いに協力し合う態度を養うとともに、一人一人が責任をもって行動できるようにすること」や「児童の活動の場をより多くもたせることにより、児童の主体的な活動につなげられるようにする」などのために行っています。ですから、表現(ダンス)は、自分でしっかりとどのように踊るのがいいかを考え、互いに協力して行わなくてはきれいに見えないでしょうし、満足する演技にはならないでしょう。様々な競技種目の中で上記の目標が達成できるように練習しています。ですから、日頃の練習でしっかりとやらないで本番がうまくいくわけはありませんし、またうまくいってはいけないと考えています。「この子たちは本番に強い。」という子どもを我々は育ててはいけないのです。一生懸命に練習を行ってきたから、本番もすごく良かったのであって、「練習ではだめだったけどこの子たちは本番に強いから。」と考える教師(大人)がいたら、間違いなくその子たちは伸びていきません。練習もそこそこに本番だけ頑張ろうとする。勉強もあまりしないで試験にのぞむ。練習も一生懸命やらずに大会にのぞむ。つまりいいかげん。そういう子にしてはいけません。



練習をするからといって、今の教育は言葉は悪いですが「軍隊のように」行うものではありません。考えて行う。考えて練習していく。そういうことを現在行っています。また、学びに向かう人間性という観点からも個人のめあてをもつことを子どもたちと考えています。そしてそれをもとにして、またこれからの教育活動に生かしていきます。

主体的な子どもを育てるために

コロナもおさまってきて、以前のような生活に戻りましたが、でも以前のような形の運動会に戻ることはないと考えます。それは、今言われている、「主体的な子どもを育てる」ためです。今までは、今回の運動会の競技にプラスして、多くの団体種目や親子種目など様々なものがありました。なぜできたか。それは、多くの授業時間を割いて練習してきたことと、教師が中心となって指導してきたからです。つまり子ども主体ではなかったためです。今、我々教師は、「例年通り」という何の考えもない受動的なことによって、以前はどれだけ子どもに考えさせながらではなく、無理矢理教え込んできたか、詰め込んできたかやらせてきたかということの反省をしています。全国の教員があのコロナ禍で、より教育について考えるようになったといわれています。主体的な子どもの育成については、これからもお知らせしていきますし、一緒に考えて行けたらと考えています。

